

多職種連携研修会報告は、
研修会の内容やアンケート結果を参加者等に発信しています

第15回研修会「地域包括ケアの実践～地域の実力を 知ろう～」が開催されました（平成30年2月8日）

研修内容

神奈川県保健医療計画では、在宅医療連携体制の構築として、【日常の療養支援】【急変時の対応】【退院支援】【看取り】の4項目が示され、地域包括ケアシステムを推進するために、段階に応じた在宅医療の提供体制を構築していくことが求められています。今回は、その4項目に沿って事例発表をして頂きました。以下、発表の概要をまとめました。



テーマ：【日常の療養支援】摂食機能訓練を行い、経口摂取が可能になった事例
発表者：松井歯科医院 松井新吾先生
概要：再評価の大切さ／経口摂取と胃瘻の利用のバランス／日常生活とレスパイトのスムーズな連携の重要性

テーマ：【急変時の対応】救急搬送時にジレンマを感じた事例
発表者：訪問看護ステーションつばさ 稗田みどりさん
概要：利用者やその家族にとって最善の方法を選択すること／疾患が隠れていることを考えながらのアセスメントの重要性



テーマ：【退院支援】患者・家族の意思を尊重しながら多職種連携によって在宅看取りに繋ぐことが出来た事例
発表者：茅ヶ崎市立病院 水嶋めぐみさん
概要：「家に連れて帰りたい」という妻の強い意思に沿った退院支援

テーマ：【看取り】看取りの場面でジレンマを感じた事例
発表者：松林ケアセンター 平本哲也さん
概要：ケアマネとして主治医や家族、支援者間の情報を適切に配信する必要性／本人・家族それぞれにも可能な限りの配慮と意思疎通の必要性



座長は、加納外科医院の加納正道院長に務めて頂き、事例発表後は、加納先生からの総括に続き、事例を基にパネルディスカッションを行いました。

総括としては、茅ヶ崎市の老衰死が日本一であるという新聞記事に触れ、老衰死が多い理由としては色々あるとは思いますが、我々の取組もその一因の可能性があると思われると話された。また、在宅療養支援診療所数が、他の地域に比べて充実しているといった反面、事例発表の中でもかかりつけ医の存在感がうすく、医師の私としては寂しい。今後は、住民にかかりつけ医の必要性を感じてもらおうことと同時に看取りを行う医師の数を増やすことが課題であると話がありました。



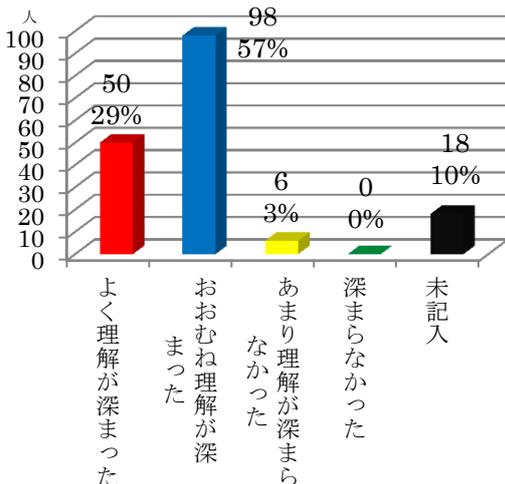
パネルディスカッションの中では、病診連携について・かかりつけ医の役割について・癌患者の精神面的サポートの必要性について・安心カプセルの活用について等、参加者から様々な意見が出され、事例発表者と活発な意見交換が行われました。

アンケートの感想には、「在宅ケアの向上により看取りまで安心して任せられるシステム作りが進んでいると感じました。」「看取りと家族間の関係性について考えさせられました。」「今後、自分の担当の方にも起こりうる事例でした。とても役立ちました。」「病院との連携はまだ発展途上なのかと思った。」等の意見がありました。

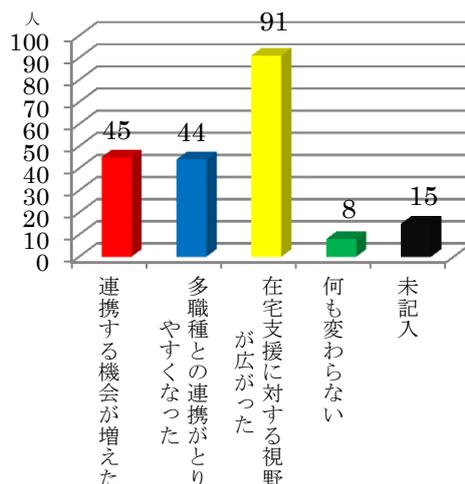
第15回多職種連携研修会アンケート集計結果

参加者：208名（アンケート回収数172枚）

1. 茅ヶ崎・寒川地区の現状について理解が深まりましたか。



2. 多職種連携研修会に参加して他職種との連携で変わったことや感じたことはありますか。（複数回答）



3. 地域における在宅医療・介護の連携の現状について

